

防犯カメラ吉川駅や公園に 設置ガイドラインを明確に

伊藤 正勝



問 多発する犯罪、事故を監視する防犯カメラは設置の動きや要望が全国的に高まっている。吉川の実状を伺う。

答 市庁舎に17台、第二保育所や吉川中学校等公共施設に合計88台を配置。その他、街頭防犯カメラを警察と協議の上、吉川駅北口に3台、南口に2台、吉川美南駅西口に3台。その他、公園には合計13台を設置している。

問 プライバシーの関係もあり、設置場所や撮影範囲、データの利用、保管や廃棄の基準、責任者の明示や住民周知の必要もあると思う。

答 市の設置については「防犯カメラの設置と運用の規則」や「個人情報保護条例」に沿っている。駅や公園は「街頭防犯カメラ設置の基本方針」を定めている。

問 公共の施設だけでなく準公共ともいえる駅や道路。スーパーやコンビニ等民間の施設や集合住宅等での設置についても一定のガイドラインが必要ではないか。

答 企業や個人の動向については把握をしていない。民間はそれぞれ関係法令を守り所有者の責任の下で配置されると考えている。

総合病院開設を 吉川美南駅東口開発地に

遠藤 義法



問 埼玉県はコロナ禍で病床数が不足したとして、増床計画を明らかにして公募した。医療法人が吉川美南駅東口開発地の商業ゾーンへ224床の病院を開設と応募し、認められた。2025年度末までに病院を開設することが条件。今後の市の対応を伺う。

答 病院を含めた区画整理地全体の活用案がデベロッパーから提出されたときに全体像を判断しないと市としてジャッジできない。(市長)
令和5年度中に優先交渉順位者を決められるよう取り組みを進めていく。(担当部長)

◆川藤地域の通学路安全策を

問 川藤の武輝神社前は通学路となっているが、道路が狭いため歩道の確保が難しい状況。これまで市は、歩道の両側へのポール設置などを実施した。しかし、危険性は解消されていない。対策を伺う。

答 ハンプやポールの設置は、近隣への騒音や沿線住宅からの出入りに支障をきたす可能性があることから慎重に検討する。その他、さらなる安全策を検討したい。

災害から市民の生命を守る

林 美希



問 平成28年度に第1回、令和5年度に第8回開催となる減災プロジェクト。減災プロジェクト実施により見えた課題は。それら課題を減災関連政策にどのように反映してきたか。

答 ペット同行避難、水害に備え感染症対策用物資保管場所を避難所内上層階に確保。避難所開設として各避難所に運営マニュアル整備、施設開設に必要な鍵を保管するキーボックス設置、開設初動時スターキットの配備など改善を図ってきた。前回の減災プロジェクトにおいては避難者の受け入れに時間を要し、受付が大変混雑するなど新たな課題が見えた。受付業務の簡略化やDX化などについて今後検討する。

問 避難所運営マニュアルの周知、避難所単位での訓練実施の呼びかけはどの団体にどのように行ってきたか。

答 自治会に対し令和4年度5月意向調査を行い避難所ごとに運営を担う自治会を定め、10月にはマニュアルに関する説明会を開催した。個別で訓練を実施する場合には、可能な限り支援していく。

人・農地プランの 進捗状況と地域計画について

岩崎 小百合



問 「人・農地プラン」とは、地域で人と農地に関する課題を話し合い、将来の地域農業の方向性を明確にして展望をまとめた計画の事。「人・農地プラン」は令和5年4月より「地域計画」へ変更となり、10年後の地域の農地利用を示した目標地図の作成に取り組む事になる。令和3年に策定された旭地区の「人・農地プラン」では農業者の高齢化や後継者の減少が地域の課題として顕著になっている。また、地域の大部分を耕作している受託者が中心となり、「農地の集積・集約化に向けて継続的な話し合いが必要である」とまとめている。三輪野江地区、及び吉川地区の「人・農地プラン」の実質化の進捗状況は。また地域計画のスケジュールについて伺う。

答 三輪野江地区及び吉川地区ともに第1段階のアンケートの実施と第2段階の地図化による地域農業の現状把握は終了。第3段階の話し合いは三輪野江地区は2回開催、来年度3回目を行う。吉川地区は令和6年度から取り組む予定。今後「地域計画」では国が示す手順に従い計画作成に必要な手続きを行う。